

## 行脚修行を通して伝わる 「神仏の慈悲」

今年の夏の気候は本当に変でした。冷夏というべきか、毎日が梅雨時期のように雨が降ったりあがったり…農作物は育ちにくく、スーパーで値札を見ては二度見するくらい値段も高価で、この不景気に輪を掛けてストレスを溜めた方も多かったのではないのでしょうか？山の方に住んでいる檀家さんのお宅にお邪魔すると、除湿器を何台も置いているのに、ものすごい湿気で、特にひどいお宅では、畳や障子などが湿気でヨレヨレになっていて始末に驚きました。このまま太陽が顔を出さない状態が続けば、お米が育たず、今から16年前になります。タイ米などの外国米を輸入したあの生活が再び到来するとも言われています。私達は普段、当たり前前にも思っている事が多々あるように思います。しかし、当たり前なんてものは何も無いのです。私達は何か追い詰められた時、あるいはちよつとつまづく事で、初めて気がつく何かがあります。健康な時

に気がつかなくても、風邪を引けば健康の有り難みに気付きます。そして風邪を治すには、安静という体調管理が必要になります。安静にして初めて見えてくる景色があります。それは、有り難いという【感謝の心】ではないでしょうか。その時に、感謝の心に気がつけるかどうか、その人の器を大きく左右する事になると思います。まあいずれにしても、今回の日照不足で、改めて自然の驚異を感じると共に、私達の命は太陽から頂いていることを再認識させられました。本当に大切なものは肉眼には見えないものですよね。だからこそ、気がつける自分でいなければいけません。ちよつと感じたことを記しました。

さて、いよいよ『吉野山』での行脚記を進めていきたいと思えます。今回の行脚修行中もつと参拝したかった場所の1つが『吉野山』だ。長谷駅から吉野駅まで電車で約1時間45分で到着した。快晴に恵まれたこの日、吉野駅の改札を抜け、胸躍らせながら見上げた吉野山は、澄み切った空気が漂っており、日本人なら誰もが抱いているであろう山への畏敬の念を感じ、自然と心身が引き締まる思いがした。

吉野駅周辺は静かで、駅関係者やタクシー運転手以外は、着物を召した素敵なご婦人が1人ベンチに座っているだけで、静寂な空気が辺りを包んでいた。

本日の宿舎は事前に予約していた「左古家旅館」さんです。電話1本で駅までの送迎が可能ということでしたので、迎車をお願いをしようとした時、《左古家》のロゴをあしらった乗用車が私の目の前に停車したのです。「アレッ？」不思議に思いながら、運転手さんに声を掛けると、「あつ本日宿泊のお客様ですか？それならどうぞお荷物をお預かり致しますよ」と言いながら、トランクに私の荷物を手際よく乗せると、後部座席に乗り込むよう促してきた。聞けば、女将さんを迎えに来たとの事でした。すると「お迎え有り難う。宿泊のお客様も一緒ですか？どうぞ…」と言いながら、先程ベンチに座っていた、あの素敵なご婦人が車の助手席に乗り込んでいった。なんとタイミンクの良い事だろうと思いがながら、私も安心して車に乗り込んだ。吉野の天候は快晴だが、時期的には残雪が残る2月の下旬。旅館までの道中には、うっすらと雪が残っており、肌寒

さを感じさせるも、雪化粧をした山の絶景に心奪われていた。駅から車で走る事約10分で旅館に到着。到着時間は午前11時30分を過ぎていた。旅館ロビーに用意されていた暖炉で冷えた体を温め、サービスで用意してくれた温かいお茶で、喉を潤した。旅館の女将さんが「お疲れ様です。ようこそお越し下さいました。この時期の吉野は冷えるでしょう…？」と声を掛けてきた。私は女将さんに、吉野山へは神社仏閣への参拝に来た事を告げると、女将さんが「それなら…この旅館があるのは〔下千本〕です。そこから上へ行く毎に、〔中千本・上千本・奥千本〕と続きます。ちよつど毎時四十分、ここ「左古家」前から、バスが出てくるから、それに乗車すると終着の〔奥千本〕まで行けます。〔奥千本〕で下車すると、あとは山を下りるよううにして参拝してこられたらいかがですか？」と、親切に説明して下さいました。それを聞いて時計に目をやると11時37分を指している。あと3分程で旅館前をバスが出発する時刻になる。体力には自信があったが、ユックリお参りする為には、1分1秒

が貴重だ。私は迷わずバスを利用する事にした。これまた時間を持って余すことのないグッドタイミングだ。

あたかも、バスが来る時間に合わせ旅館に到着した様なタイミングだった。しかし考えてみると、もし吉野駅での迎車も女将さんの迎えがなかったら、連絡して迎えに来られるまでの時間がロスタイムになるところだった。この時のロスタイムを費やしていたら、40分を過ぎてから旅館に到着していた事だろう。そうなればバスを利用することは出来なかったのだ。何か大きな神

仏様の力が働いており、1点1点全てが、大きな1つの線で繋がっているような感じがした。いやあ、信仰の旅ってこういうものなのかなあ

〜?と、目に見えない神仏様の存在に対し、有り難い気持ちで感謝の心が湧いてきた。

ただただだけどさあ、この時ばかりは神仏様が私を試されたのです。試されたというよりも、よりよい経験させようと導いて下さったのだと、今になって思う。と言つのも実は、バスを利用しようと「左古家」前のバス停で待つこと5分、定刻時間に

なってもバスが姿を見せなかった。慌てて女将さんが観光協会へ電話し、確認したところ、桜の時期でもない2月下旬は観光客の足も遠のき、一般客が吉野へ訪れることは殆ど無く、冬期中はバスの運行を止めているとの事だった。(涙)。ここまでずっとタイミング良く来られただけに、釈然としなかったが、それだけに気持ちを整えることができた。そりゃそうだ、自分は行脚しに来たんだ。自分の足を使って山を読経しながら、世界平和を祈りながら歩くのが目的だったはず。そう思い直して下千本から奥千本を指す事にした。「いざ出発!」という時に、女将さんから地図を手渡され、助言を頂いた。女将さん曰く、「今から奥千本まで歩いていくのは時間的にも無理でしょう。吉野山の仏様と言えば、下千本にある蔵王堂・吉水神社などです。これらは左古家の周辺ですから、それらの仏様をユックリお参りすると、夕方6時頃に旅館に戻ってこられる調度良い時間になると思いますよ」と、提案して下さった。しかし、私の気持ちの中では、すでに奥千本を目指していた。女将さんと地図を見ながら「因みに、奥千本まで行く道のりは、どの道を行けば

宜しいですか?」と尋ねると、「いやあ、今では奥千本まで歩いて行く人なんていませんよ。みんなバスか乗用車で行くのです。奥千本まで大変な道になりますから、止めた方がいいですよ。」「また、次回お越しになられた時に行かれるなら」と、中千本から上千本へ行く2股に分かれる道を指さしながら、「こちらの道は新しく舗装された道で、バスや乗用車などもこちらの道を使います。道中にはいくつかの神社仏閣が建ち並んでいるから、歩いていても景観を目で楽しむ事ができます。しかしもう一方は、昔ながらの山道で杉林しかありません。しかも昔ながらの山道という事もあり、グネグネと道が行ったり来たりと、無駄に遠回りになる道です。間違っても、こちらは通らないように気をつけて下さいね」と示唆してくれた。確かに地図からも、女将さんの言われる意味が見てとれた。それではと、女将さんの心配をよそに、奥千本上にある「金峰神社」を目指し、舗装された道を見失わないよう吉野山での1歩を踏み出した。

次号へ続く…

合掌 副住職 谷川寛敬